

## コレクション展 I | た・び・て・ん

### 小企画 | 生誕100年 元永定正展 -伊賀上野から神戸、そしてニューヨークへ-

2022年1月22日(土)~7月3日(日) ※4月11日(月)-22日(金)は休室し、一部展示替を行います。

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館(1970年開館)から作品収集活動を続け、現在10,000点以上の作品を収蔵しています。本年2022年は、1年を2期にわけ、それぞれテーマを設けて展示すると同時に、8室ある展示室の1室を使用して小企画展を開催します。今回の2022年コレクション展Iでは、「た・び・て・ん」と題して全体を構成し、常設展示室2とその前後の常設展示室1と3の一部を小企画「生誕100年 元永定正展」にあてています。この小企画展についても、「旅」から派生して、作者の「移動」すなわち制作地の変化と作品の関係をさぐることで、全体とのゆるやかなつながりをもたせています。また、彫刻を主に展示する常設展示室5、小磯良平記念室および金山平三記念室でも「た・び・て・ん」にちなんだ作品を展示します。

## コレクション展 I | た・び・て・ん

自由に外に出ていく時間が少ない日々が続きました。そこで、美術館で「旅」の気分を味わってはどうかと考えました。そうです。われわれには「美術館がある」「美術がある」「作品がある」ということで、作品とともに、あるいは作品の中へと旅に出たいと思います。

### [章構成]

- パート I 旅への誘い【常設展示室1】
- パート II 出発、道中、滞在、遁走【常設展示室3】
- パート III みんなで行こう-名所の旅【常設展示室4】
- パート IV 作者の旅【常設展示室5(部分)】  
【小磯良平記念室(部分)】  
【金山平三記念室】  
【常設展示室6】



1 詫摩昭人《逃走の線1》2004年

### [関連イベント]

#### 学芸員による解説会(小企画含む)

2022年1月29日(土)、3月5日(土)、4月2日(土)、5月14日(土)、6月18日(土) いずれも午後3時から(約45分)

レクチャールームにて | 定員40名 | 聴講無料・先着順

### 小企画 | 生誕100年 元永定正展 -伊賀上野から神戸、そしてニューヨークへ-



7 元永定正《實がある》1954年頃 個人蔵(三重県立美術館寄託)

元永定正(1922-2011年、三重県阿山郡上野町[現・三重県伊賀市]生まれ)は、具体美術協会を代表する作家のひとりとして世界的に知られています。そのカラフルな色彩と生命体を思わせる形態は、こどもから大人まで高い人気を誇ります。元永の生誕100年にあたる2022年、兵庫県立美術館では、元永が伊賀から神戸へ移住し、ニューヨークへ渡るまでの期間に焦点を絞り、「場の移動=旅」という観点から作品を紹介します。今回の展示では、当館のコレクションに加えて、初期の代表作や立体作品を紹介します。また、調査中に新たに発見された作品や、国内では初展示となる作品や資料も展示します。立体・平面という区別なく自在に表現した元永の多彩な表現をお楽しみください。

### [関連イベント]

#### 講演会「も～やんとのおい出を語る」

講師：中辻悦子氏 | 5月14日(土) 午後2時より(約1時間30分)

開場：午後1時30分 | ミュージアムホールにて | 定員125名 | 聴講無料・先着順

#### こどものイベント

※4月以降に開催予定。詳細は当館Webサイトにて告知します

特別協力 | モトナガ資料研究室

## 開催情報

### 2022年コレクション展 I

- 会期 2022年1月22日(土)～7月3日(日)  
※4月11日(月)～4月22日(金)は閉室し、一部展示替を行います。
- 開館時間 午前10時から午後6時  
※ 入場は閉館の30分前まで
- 休館日 毎週月曜日。ただし3月21日(月)は開館、翌22日(火)は休館
- 会場 兵庫県立美術館(〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL:078-262-1011 <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)

### 観覧料

区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット料金
一般	500円	400円	300円
大学生	400円	300円	200円
高校生以下	無料	無料	無料

### [その他割引適用料金]

区分	当日	団体 (20名以上)	特別展との セット料金
70歳以上	250円	200円	150円
障がい者 一般	100円	100円	50円
障がい者 大学生	100円	50円	50円

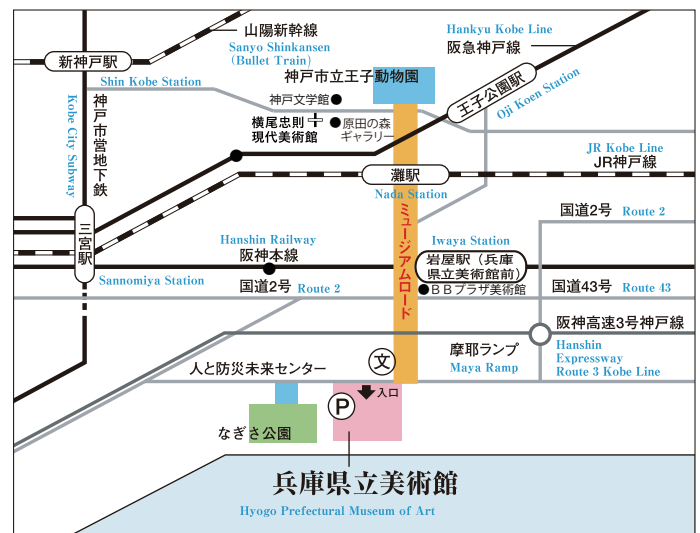
- ※ 一般以外の料金には、証明できるものご提示が必要です。
- ※ 毎月第2日曜日(2月13日、3月13日、4月10日、5月8日、6月12日)は公益財団法人伊藤文化財団の協賛により無料です。
- ※ 団体(20名以上)でご鑑賞いただく場合は事前のご連絡をお願いいたします。

※ 障がいのある方1名につき、介護の方1名は無料です。

- 主催 兵庫県立美術館
- 協賛 公益財団法人伊藤文化財団、**サフラティタワー神戸**(株式会社ハーフ・センチュリー・モア)
- 特別協力 [小企画] モトナガ資料研究室
- 企画担当 西田桐子、林優、安永幸史(以上「た・び・て・ん」担当)、遊免寛子(小企画担当)

### 【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分
- ・ JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
- ・ 阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
- ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29、101系統)阪神バスにて約15分  
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
- ・ 地下駐車場(乗用車80台収容・有料)



### お問い合わせ

兵庫県立美術館 広報担当 細田・東原・宇高  
TEL: 078-262-0905 (直通) FAX: 078-262-0903 Email: [press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp)

## 『た・び・て・ん』の展示構成と見どころ

旅が日常を離れて、今いるここからどこかへ赴くことであるならば、旅の空間と時間は、美術館の空間とそこで過ごす時間に似ています。美術館で出会う作品は、わたしたちを遠くへ連れ去るばかりか、ときに身近な何か、知らずに過ぎたあれこれを思い起こさせます。もちろん、描かれた旅の風景や人々を見て（行ったことがあってもなくても）、旅情をかきたてられるということもあります。作品が旅の感覚をよびさますこともあれば、それを作った作者の移動の感覚が見るわれわれに投影され、見終わったあと、旅を終えて帰ってきたかのような充実感や虚脱感を得ることさえ可能です。作品から派生して、旅した作者その人の状況や心境に思いを馳せることで、より深い感動が得られる場合もあるでしょう。本展では、そのような美術館の空間とそこでの時間および作品がわれわれに拓く、旅の感覚、旅への思いを念頭に選定した収蔵作品をご覧ください。

### パートⅠ 旅への誘い 【常設展示室1】

作品が内包する空間あるいは時間の中へ入り込み、作品内部への没入感に浸ることが、美術館での体験ならば、それそのものが旅であります。ここでは、空間的・時間的の領域に焦点をあて、その拡がりの中に身をゆだねることで、見る人に旅の感覚を誘発する作品を展示します。

■児玉靖枝、詫摩昭人、林勇気、正木隆ほかの作品を展示



2 林勇気《another world - alternative》2017年  
静岡市美術館での展示（撮影：木奥恵三）

### パートⅡ 出発、道中、滞在、遁走 【常設展示室3】

旅のプロセスはさまざまです。決然たる出発があるかと思えば逡巡の中ではじまる旅路があり、必ずしも直線的ではない道中、よりどころを失ったかのような、しかし身軽な滞在があります。ここでは、そうした旅の要素を垣間見ることのできる作品を集めます。

■秋岡美帆、オスカル大岩、中馬泰文、山口啓介ほかの作品を展示



上永井正《無題》1975年

### パートⅢ みんなで行こうー名所の旅 【常設展示室4】

物見遊山の旅ほど楽しいものはありません。誰もが知っている場所へみんなで繰り出そうではありませんか。そんな楽しさ、そして、時にみんなの中での寂しさを疑似体験できる名所を描いた作品を展示します。

■歌川国員、南粹亭芳雪、里の家芳瀧《浪花百景》や井上安治、織田一磨、川瀬巴水、小林清親、横尾忠則の作品を展示

《浪花百景》全101点を次の6期に分けて展示します。

- 1月22日(土)ー2月13日(日)
- 2月15日(火)ー3月13日(日)
- 3月15日(火)ー4月10日(日)
- 4月23日(土)ー5月15日(日)
- 5月17日(火)ー6月12日(日)
- 6月14日(火)ー7月3日(日)



3 歌川国員《浪花百景 三大橋》  
展示期間：1月22日ー2月13日



歌川国員《浪花百景 住吉高とうろう》  
展示期間：6月14日ー7月3日

『た・び・て・ん』の展示構成と見どころ

※小林清親作品、川瀬巴水作品、井上安治作品は 次の4期に分けて展示します。

- 1月22日(土)–2月27日(日)
- 3月1日(火)–4月10日(日)
- 4月23日(土)–5月29日(日)
- 5月31日(火)–7月3日(日)

※織田一磨作品は次の2期に分けて展示します。

- 1月22日(土)–4月10日(日)
- 4月23日(土)–7月3日(日)



4 織田一磨《大阪風景 住吉》1918年  
 展示期間：4月23日–7月3日



小林清親《高輪牛町驛月景》1879年  
 展示期間：3月1日–4月10日

パートIV 作者の旅

古来、芸術家である作者と旅は切っても切り離せない関係にあります。各地の風景を描きに出かける写生旅行から、留学・遊学のための外国滞在、観光誘致のための制作旅行など、作者はさまざまな旅を経験します。ここでは作品の作者と旅の関係に焦点をあてて、作品を読み解きます。

-1 彫刻家たちのイタリア【常設展示室5(部分)】

イタリアで学び、制作した吾妻兼治郎、山本正道、小林且典らの作品を本家本元のメダルド・ロツ、クロチェッティ作品とあわせて展示。  
 ※小林且典作品は4月23日(土)より展示します。

-2 小磯良平の旅【小磯良平記念室(部分)】

室内にいる人物を描くことがほとんどの小磯ですが、どこでもいつでも描く小磯は旅先、滞在先の風景ももちろん描いています。

-3 金山平三の旅【金山平三記念室】

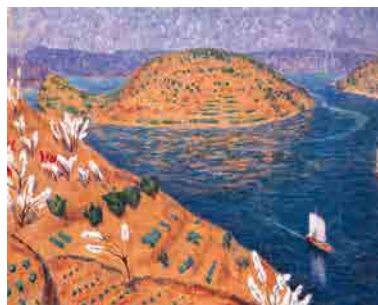
この季節にはこの土地、そこからまた別の土地にまわって、こういう状況での風景を・・・ということを綿密に計画して制作した金山平三。そうして描いた「典型」としての作品を展示。ここでは描けないと言いながら、それでも描いた金山の魅力をどうぞ。

-4 画家たちの旅【常設展示室6】

旅の特徴こそが作品の特徴であるような画家の作品を展示します。



山本正道《帽子をかぶった肖像》1987年



5 新井完《御手洗風景》1923年



6 金山平三《一時に新芽ふく》1945-56年



西山翠璋《短夜》1917年  
 展示期間：4月23日(土)–7月3日(日)

小企画「生誕100年 元永定正展 —伊賀上野から神戸、そしてニューヨークへ—

伊賀上野時代、それまで漫画を書いていた元永は、文展系の画家・濱邊萬吉と出会い、具象的な洋画を描き始めます。1952年に神戸に移住し、阪神間の前衛的な作家や表現に出会ったことがきっかけとなり抽象表現に転向。ほどなく参加した具体美術協会では1958年より絵具を流して描く手法で抽象的な形態を描き始め、数多くの作品を生み出しました。1966-1967年に滞在したニューヨークでは、エアブラシで描く方法を知り、新たなスタイルを獲得し、その後の絵本にも通じるユーモラスな表現へと移行していきます。言わば元永の表現は、自身が移動したそれぞれの場所で出会った人、作品、素材により次々に変化していったと言えるでしょう。来る2022年は元永の生誕100年にあたります。本展では、抽象との衝撃的な出会いをはたした阪神間で生み出された初期の作品から、ニューヨークへ渡り新たな表現へと踏み出すまでの時代に焦点を絞り、元永作品の最大の特徴と言うべき「いろ」と「かたち」が生まれた背景を「旅≡移動」という観点で振り返ります。また、初期の代表作と共に、これまで紹介される機会の少なかった立体作品や、日本では未発表の作品を併せて紹介することで、立体・平面という区別なく自在に表現した元永の多彩さと、その革新性に迫ります。



8 《ざるから》1954年 個人蔵



《作品8》1960年



9 《作品 N.Y.No.1》1967年

【関連イベント】

講演会「も～やんとのおい出を語る」

講師：中辻悦子氏 | 5月14日(土) 午後2時より(約1時間30分)

開場：午後1時30分 | ミュージアムホールにて | 定員125名 | 聴講無料・先着順

こどものイベント

※4月以降に開催予定。詳細は当館Webサイトにて告知します。

【略歴】

- 1922(大正11)年 11月26日、三重県阿山郡上野町桑町(現・伊賀市)に生まれる
- 1944(昭和19)年 濱邊萬吉に洋画を習い始める
- 1952(昭和27)年 神戸市に転居
- 1953(昭和28)年 芦屋市展に出品し始める
- 1955(昭和30)年 吉原治良の誘いを受け、具体美術協会に参加
- 1958(昭和33)年 絵具を流した作品の制作を始める
- 1960(昭和35)年 ニューヨークのマーサ・ジャクソン画廊と契約(翌年、同画廊で個展開催)
- 1964(昭和39)年 第6回現代日本美術展で優秀賞受賞
- 1966(昭和41)年 ジャパンソサエティの招聘でニューヨークに滞在
- 1967(昭和42)年 アクリル絵具、エアブラシを使用し始める。ヨーロッパ経由で帰国
- 1970(昭和45)年 具体美術協会から退会
- 1977(昭和52)年 谷川俊太郎と絵本『もこもこもこ』刊行
- 1991(平成3)年 三重県立美術館で「元永定正展」開催。紫綬勲章授章
- 2002(平成14)年 西宮市大谷記念美術館で「元永定正展」開催。三重県民功労賞文化賞受賞
- 2009(平成21)年 三重県立美術館で「元永定正展」開催
- 2011(平成23)年 兵庫県立美術館で開催された「神戸ビエンナーレ2011」REFLEXIONEN ひかりいろ かたち」に出品
- 10月3日死去、享年88



提供：モトナガ資料研究室

# 「2022年コレクション展Ⅰ」広報画像申込書

e-mail : [press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp) / FAX : 078-262-0903 兵庫県立美術館 企画・広報担当宛

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

## た・び・て・ん

- 1 詫摩 昭人《逃走の線 1》2004 年 兵庫県立美術館蔵
- 2 林 勇氣《another world -alternative》2017 年 静岡市美術館での展示（撮影：木奥恵三）
- 3 歌川 国員《浪花百景 三大橋》 兵庫県立美術館蔵 ※展示期間：1月22日－2月13日
- 4 織田 一磨《大阪風景 住吉》1918 年 兵庫県立美術館蔵 ※展示期間：4月23日－7月3日
- 5 新井 完《御手洗風景》1923 年 兵庫県立美術館蔵
- 6 金山 平三《一時に新芽ふく》1945-56 年 兵庫県立美術館蔵

## 生誕 100 年 元永定正展

- 7 元永 定正《寶がある》1954 年頃 個人蔵（三重県立美術館寄託）
- 8 元永 定正《ざるから》1954 年 個人蔵
- 9 元永 定正《作品 N.Y No.1》1967 年 兵庫県立美術館蔵

### ●貴媒体の情報をご記入ください。

○媒体名（番組・雑誌名等）：

○媒体種：新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他（ ）

○掲載・放送予定日： ○参考 URL

○原稿確認予定日：

※WEB 掲載の場合、いずれかに○をつけてください。コピーガード対応 可 ・ 不可

### ●申請者の情報をご記入ください。

○貴社名：

○所在地： 〒

○ご担当者名：

○メールアドレス：

○電話番号：

●読者・視聴者プレゼント用招待券： 組 名分を希望（最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです）

### 【画像使用に際しての注意事項】

○作家名、作品名、制作年、クレジットなどを記載してください。

○作品画像の加工（着色、トリミング、文字載せなど）はできません。

○基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画・広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。

○掲載媒体を1～2部、もしくは URL、同録(DVD、CD)を「企画・広報担当」宛にお送りください。

○画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます(会期終了まで)。

○再放送、転載など二次使用をされる場合には、改めて申請願います。

## 兵庫県立美術館 取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、  
**取材希望日の3営業日前までに**  
メールまたはFAXにてお申込みください。

お申込日                    年                    月                    日

メール送付先: [press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp) / FAX送付先: 078-262-0903

### 取材内容

希望日時	第1希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分
	第2希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分
	第3希望	年	月	日	曜	時	分	～	時	分
希望場所										
企画内容										
カメラ撮影	<input type="checkbox"/> あり   スチール   台     ムービー   台     三脚/脚立   台 <input type="checkbox"/> なし									
取材人数	人	取材時の代表者名								
媒体種別	<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> その他(                    )									
媒体名										
掲載・放送 予定日時	<input type="checkbox"/> 掲載                    年                    月                    日                    曜                    時                    分 <input type="checkbox"/> 放送									

ご連絡先	担当者名	
	社名・部署名	
	住所	
	電話番号	
	FAX	
	E-mail	

- \* 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- \* 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。
- \* 掲載媒体を1～2部、もしくはURL、同録(DVD、CD)をお送りください。

### 〈取材についてのお問い合わせ〉

兵庫県立美術館 企画広報担当(細田・東原・宇高)  
〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1  
TEL:078-262-0905 FAX:078-262-0903 Mail:press@artm.pref.hyogo.jp